

## 中学生の「税についての作文」

新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

### 循環でより良い世の中へ

上越市立雄志中学校 一年

小酒井 太一

今日も僕は友人の家へ自転車をこいで、遊びに行く。そこへ行くには最近できた新しいトンネルを通る。そのトンネルは、過疎化で病院の統廃合が進むこの地域において、雪深い冬でも救急車が隣の街の病院まで安全に走れるように造られた道路の下を通っている。

このトンネルも道路も、税金を使って造られている。僕はこれまでに税金は納めるもの、使われるものだけ思っていた。でも、税金について調べる中で、それだけではない大切な役割を持っていることを知った。

例えば、トンネルや道路が造られる時、税金は工事会社を通して人件費や資材費等として使われる。人件費は働く人の給料となり、資材費は販売元へ支払われる。そして給料はまた税金として納められる他、働く人の生活費として社会に還元されていく。一方、販売会社に支払われたお金も税金として納められる他、資材の調達に関わる人々に配分されていく。僕は、このように税が生活に必要なものを構築するために使われるだけでなく、その過程で関わる人々を通して社会に還元

され、経済を動かしていることを知り驚いた。

さらに、税金について調べる中で、僕はもう一つ驚いたことがある。それは、トンネルや道路を造る公共事業費より社会保障費の方がはるかに多くの歳出を占めていたことだ。その社会保障の一つである年金も、受け取った人が受け取ったお金を生活費として使い、使われたお金の一部は、また税金として納められていく。これらのことから、税という仕組みによってお金が循環することで、世の中がより良くなっていくことが分かった。

ただ、税という仕組みにおいて、世の中がより良くなるお金は循環があることにも気が付いた。その一つとして戦争があると僕は思う。ウクライナのニュースを見て、いくらお金を使っても、幸せは生まれないことを知った。逆に悲しみや怒りなどの負の感情しか生まないと思った。これからは、そうした社会情勢を知り、これから税がどのように使われようとしているか、税金が良い循環を生む使われ方をしているかに関心を持ちたいと思う。

今回、税について調べて税金でつくられたり、賄われたりしているものが身の周りにたくさんあることに驚いた。税が、自分や周りの人の生活と切っても切れない関係の深いものであると分かり、前よりも身近に感じた。そして、税という形でお金が循環することで、世の中がより良くなっていく素晴らしい仕組みだと思った。私達の納めた税金が、今日もどこかで誰かの役に立っている。そう思うと社会とのつながりを感じる。税金は人々のより良い社会になって欲しいという願いを託され循環していく。

将来、僕は税の仕組みのように、世の中や人々の暮らしがより良くなるような仕組みを意識した社会人になりたいと思う。